

平成28年4月26日

風は東から

To be continued...
to be continued...

関東大会都大会 ベスト8 ならず!!
次のインターハイで リベンジを誓う !!

関東大会都大会 VS 実践学園 1-2 あと一歩? 及ばず…。

インターハイでは、強豪校の壁、ベスト8の壁に再チャレンジする !!

4月10日(日)、**ベスト8**を賭けた**関東大会予選東京都大会**が駒沢公園内競技場の二会場で行われました。前に行われていた二ゲームが延長に纏れるということもあり、キックオフは予定より三十分遅れましたが、隣の会場のゲームが全て終わったこともあり、気が付くと駒沢補助競技場には多くの観衆が集まっていました。この中で公式戦を経験できるということは羨ましい限りです。前週に多摩大目黒高校に大差で勝利し、関係各所から「何があったのだ?」という驚きの電話が何本も入りました。都大会という公式戦で格上のチームから7点も奪うということは決して簡単なことではなく、東京都高体連サッカー関係内での話題作りになったと思います。

そして、この日は更に強豪校の「**T1**」リーグに所属する**実践学園高校**が相手です。選手権にも出場経験があり、言わずもがな全国区のチームです。中学校やジュニアユース時代から名を馳せている子どもたちが多く進学し、人工芝のグラウンドに隣接したクラブハウスやウエイトルームなど、公立高校からすると羨ましいくらい大変恵まれた環境の中で、全国大会出場を目指して日々**TR**を行っています。先週以上に苦戦は必至ですが、東高としては何とか強豪校の壁に立ち向かい現在の自分たちの力がどのくらい通用するのか、謙虚な気持ちで、全力で挑みました。もちろん、東高のサッカースタイルで勝負をしに…。

立ち上がり、実践学園の圧力に押し込まれる場面が続きました。実践学園の攻撃パターンは分かっている嫌なものです。しかし、時間の経過とともに東高はGK**久保**を中心に守備陣もしっかり対応し、実践学園の攻撃を跳ね返し、次第にそのボールを中盤が収められると東高がリズムを掴み出します。東高のボール運びが機能し始めると子どもたちも勇気を持ってプレーをし、実践学園ゴールに迫ります。前半に二度ビックチャンスをつかみますがここは実践学園GKの果敢な飛び出しに阻まれます。そして、先制点かと思われた**佐藤**のゴールは紙一重でオフサイドの判定。新人戦地区予選から全て無失点で勝ち上がってきた実践学園のゴールを奪うのは容易ではありません。しかし、いい意味で想定外のゲーム展開に、東高としては後半の四十分間に勝負を賭けました。

「後半の四十分間で決着を付けよう!!」

ハーフタイムには、前半の修正点と、最後に上記の指示を出して後半戦に臨みました。

先に動き出したのは実践学園でした。前ゲームでも後半に投入された選手が、早速仕掛けて出ます。相手陣地でプレーをしても奪われたボールはいつもそこに入りスピードに乗ったドリブルでチャンスを演出します。後半10分には技ありのループシュート…。これはGK**久保**のファインセーブでCKに逃れましたが、その直後に一番警戒していたセットプレーから遂に失点し先にリードを

許します。残り時間は25分。ここからは、追加点の欲しい実践学園と追い付きたい東高との鏝迫り合いが暫く続きます。お互い持ち味を出しチャンスを掴みますがゴールには至りません。時間の経過とともに激しいコンタクトプレーの応酬で両チームとも疲れが見え始めましたが、後半28分に東高がチャンスをもものにします。中央でボールを受けた**鎌田**がドリブルで仕掛け、相手DF陣を引き付けてパス、そのリターンを受けGKと一対一となり冷静にゴールへ流し込み同点!!駒沢補助グラウンドがこの日一番(?)湧いた瞬間でした。しかし、その五分後に、勝負を賭けて逆転を狙いに前掛かりになっていた裏を突かれカウンターから失点。**1-2**となり再びリードを許します。もう、攻めるしかなくなった東高は最後まで諦めず、実践学園ゴール前に果敢に迫りますが、強固な実践学園守備陣をととう崩すことができずにこのままタイムアップ。**関東大会予選東京都大会**の東高のチャレンジは**都ベスト16**で終了しました。



<最後まで強豪校の実践学園に喰らい付き闘い続けた。選手も応援団も**一丸**となって…>

ベスト8の壁、強豪校の壁、頂上は険しく厳しい…

関東大会予選東京都大会では、**ベスト8**までそして強豪校である**実践学園**を倒すところまであと一歩と迫りました。しかし、この一歩が実は大きく、この壁を打ち砕くためには、今後の**TR**で更に努力が必要です。どのチームもこの壁を超えるために何年も時間を要しています。でも、あれだけ遥か彼方にあり全く見えなかった頂きを、今大会では若干ではありますが覗くことができました。まだまだ、頂上までの道のりは険しく厳しいようですが、五月中旬(組み合わせは**5月3日に決定**)からスタートする、次の公式戦である**インターハイ予選都大会**までにしっかり準備をして、もうひとつ向こうにある目標地点を目指していきたいと思えます。

<After the Game>

東高の関東大会でのチャレンジは**ベスト16**で終了しました。

1月に新人戦地区大会決勝で**明大中野八王子高校**に敗れてからこの三ヶ月間積み上げてきた厳しい**TR**の成果が、今大会で表れたと思えます。都大会では格上の**多摩大目黒高校**に勝利し、続く全国区**実践学園戦**では、一度は追いつくものの最後は力の差を見せつけられました。しかし、この闘いを通して、子どもたちもスタッフも一定の手応えを肌で感じる事ができました。また、都大会という大舞台で、多くの観客の見守る中で闘えたことは貴重な体験となりました。やはり、地区大会とは会場の雰囲気は全く違います。今度は、インターハイ都大会で味わいたいと思えます。

また、ベンチ入りできなかった子どもたちの有志は、大会前日に夜遅くまで残って団旗や小旗を作っていました。実践学園の応援も素晴らしものでしたが、東高応援団も負けていませんでした。「**やっと、選手も応援団も一丸となって闘えるチームになった**」とスタッフ一同実感し、喜んでいました。

次は、**インターハイ都大会 (三大会連続)**です。引き続き、応援宜しくお願いいたします。